

第7回福井県高等学校教育問題協議会 議事録

□日時 平成20年 5月23日(金) 13:30~16:00
 □会場 福井県国際交流会館 3階 特別会議室
 □出席者 委 員：金井委員、杉田委員、瀬尾委員、津田委員、橋詰委員、福田委員、藤田委員、三上委員、吉岡委員、吉川委員、吉田委員、渡辺委員(12名、五十音順)
 オブザーバー：県高等学校長会 赤澤会長、県高等学校教職員組合 鈴木執行委員長、県教職員組合 高嶋副執行委員長、県高等学校長協会定時制・通信部制部 矢崎部会長、県中学校長会 山下会長(5名、五十音順)
 □事務局 広部教育長、加藤教育庁企画幹(学校教育)、山内教育政策課長、中島高校教育課長

○開 会

教育政策課長 ただ今から、第7回目の「福井県高等学校教育問題協議会」を開催いたします。皆様方には、お忙しい中、会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。なお、本日、委員の御出席は12名で、全委員18名の過半数に達し、会議が成立しておりますことを御報告申し上げます。それでは、開会に当たりまして、広部教育長から御挨拶を申し上げます。

○あいさつ

広部教育長 本日は、大変お忙しい中、第7回福井県高等学校教育問題協議会に御出席を賜り、厚くお礼申し上げます。前回は、職業系学科の在り方、高校の規模と配置について、これまでの皆様からの御意見を取りまとめたものを御確認いただきますとともに、新たに「就学・就労形態等に応じた定時制・通信制課程の在り方」について広く御議論を賜りました。今回は、前回皆様からいただいた御意見を取りまとめたものを御確認いただきますとともに、引き続き、定時制・通信制課程の在り方について検討をお願いしたいと思います。前回にも申し上げましたが、定時制・通信制課程は、「働きながら学ぼうとする青少年への高校教育の保障」という役割から、新たに「様々な就学動機や就労形態を持つ生徒の教育」という役割を果たすことが求められております。委員からも御指摘がありましたが、こうした背景には、定時制・通信制課程には、不登校の経験がある生徒、全日制になじめないために転入・編入する生徒など、様々な課題を抱える生徒が増加していることがあり、高校教育が抱える様々な問題が集約されているというわけでございます。皆様方には、大変難しい問題について検討をお願いしているわけですが、本県の定時制・通信制課程で学ぶ生徒たちに、充実した高校生活を送ってもらい、また将来社会の一員として活躍してもらいたいということは、私どもの共通の願いであると思っております。教育委員会におきましても、皆様方の御意見を踏まえまして、昼間二部制の見直しをはじめ、教育内容の充実等について早急に検討したいと考えております。最後に、本県における定時制・通信制課程の望ましい在り方につきまして、委員の皆様方それぞれのお立場から、幅広い御意見を賜りますようお願い申し上げます。あいさつとさせていただきます。

なお、お手元に参考といたしまして、福井県立道守高等学校の学校要覧をお示ししてございます。道守高等学校だけでございますが、他の定時制高等学校の教育、カリキュラムの中身はそれぞれ異なる部分がございますことは御承知おき賜りたいと思います。ちなみに、この要覧の2、3ページに記載してございます「学校の沿革」などを見ていただきますと、本県の定時制高等学校の変遷が記載されております。以前はいかに企業と密接に関係していたか、その後の変遷、移り変わりがよくわかりいただけるのではないかと思います。では、よろしく願い申し上げます。

○議 事

教育政策課長

では、議事に移ります前に資料の確認をさせていただきたいと思います。次第、委員名簿、配席図、諮問文をお付けしてございます。また、協議資料1「第7回福井県高等学校教育問題協議会資料」を配布してございます。また、参考資料1として、前回配布した資料をもう一度お配りさせていただいております。参考資料2は前回の協議会の議事録でございます。また、委員の皆様には、発言する際には、お席のマイクのスイッチを入れていただきますようお願いいたします。

それでは、以降の議事進行につきましては、福田会長にお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

福田会長

それでは、早速議事に入らせていただきたいと思います。まず、事務局の方から、これまでの会議における意見・提案の趣旨、あるいは他県の事情などを御説明いただきたいと思います。その後で皆様から活発な御意見をいただきたいと思います。事務局、よろしく願いいたします。

高校教育課長

高校教育課の中島でございます。それでは、説明させていただきます。

まず、協議資料1「就学・就労形態に応じた定時制・通信制課程の在り方について」を御覧いただきたいと思います。論点は3点ございまして、まず論点1、「生徒の入学動機や生活状態の多様化に対応するために就学形態はどうあるべきか」です。現状と課題については、先ほどもお話がありましたが、働きながら学ぶという定時制の役割が大きく変わってきているというところがあります。そうした中、課題が何点か出てきているということでございます。そういうことを踏まえまして、委員の皆様方から、いわゆる昼間の交代二部制、繊維産業の労働形態との関係からの就学形態の見直しは当然必要であろう。さらに、全国の定時制の状況を踏まえますと、昼間で固定した二部制あるいは三部制、単位制、二学期制の導入という流れにあるということの確認等の議論をしていただきました。

2ページを御覧ください。定時制は4年間で就学という形があったわけですが、今の生徒の対応から考えますと、希望があれば3年で卒業できるという3修制が必要ではないか。昼に3年間勉強して卒業するという環境を作る必要があるのではないか。この3修制ですが、学年制ではなく単位制で、という希望も多いのではないかという御意見がありました。また、道守高校の通信制の単位制についての議論がありました。これについては、実態に沿った検討が必要ではないかということでもあります。次に、2学期制についてでございます。福井県の高校では学期の途中で受け入れるということが少ないが、2学期制にする中で、そういう受入れにも対応ができるのではないか、2学期制の導入が必要ではないかという議論がありました。

論点2は、「社会や生徒が多様化する中での教育の体制はどうあるべきか」ということで、どこに問題があるかということをお3ページに少し書かせていただきました。大学への進学が増え、いわゆる無業層は減少してきているわけですが、

離職の問題、早期離職率が全日制と比べて高い、そこには様々な課題があると言えるわけです。ひとつには不登校の問題もありますが、これだけではなく、いろんな問題があります。委員の皆様方から、そういう生徒のためには単位制が望ましいが、一方では集団づくりとか、集団の中で生きていくということが大事だから、いわゆるホームルーム機能も一方では考える必要がある。そして、共に学ぶ、共に対話をするという能力を養うことが、さきほどの早期離職を防ぐことにもなっていくのではないかと御意見がありました。また、「定時制高校に生涯学習の機能を持たせる」という御意見がありましたが、これはある意味で通信制の方に関わるかもわかりません。地域住民の方々とともに高校生が生きていく、共に学ぶ時間帯や場所なども考えられるのではないかと御意見がありました。また、福井県の定時制高校は、道守の商業科を除き、生徒さんはほとんど普通科課程を学んでおります。学科につきましても、生徒の持っている能力をいろんな形で引き出すためには果たして普通科だけでいいのかという議論がありました。

4ページを御覧ください。課題のひとつとして、高校教育をうける前提としての学力がついていないということも押さえておかないといけないという御意見がありました。

2点目の問題としまして、心に悩みを持つ生徒、人とうまく交われない生徒等を含めて、カウンセリングというものが大きな課題としてあるのではないかと御意見がありました。事務局としての意見も少し入っていますが、カウンセラーを置いたら解決する問題だけではないところもあります。このカウンセリングというのは広い問題があります。いわゆる悩みというレベルの問題から、病気というレベルの問題まで、いろんなことをカウンセリングの名の下でできるかどうかということがありますが、共通理解としては、カウンセリングの機能は充実させていく必要があるということでございました。

それと、これは他の県とは少し実情が違うのですが、いわゆる外国籍の生徒への対応もこれからは重要性が増してくる。現状では10数名おりますが、日本語が話せないという生徒はあまりいないのではないかと思います。ただ、課題としましては、保護者は日本語がしゃべれないため、連絡がとれないということがあります。大体は対応できているかと思いますが、外国籍の生徒への対応も課題としてあるということでございました。

論点3でございますが、こうしたことを踏まえて、定時制の教育が少しでも充実したものとなり、生徒がともに地域を支えていける社会人として巣立っていくための適正な規模や配置はどうあるべきかの議論をしていただきました。

福井県の定時制の入学選抜における充足率というのは決して高くありませんが、それ以外の、いわゆる転入や編入という制度もあり、これらがかなり大きな役割を占めております。しかし、そこで本当に十分機能を果たしているか。本当は入りたいのだけれども入れない生徒もいるのではないかと御意見があります。小規模な学校の場合、非常にきめ細やかで、指導が細かくできるわけですが、先ほど言ったような、生きていくための本当の意味での力強さをどうつけていくかということに課題があります。また、生徒の通学の方法でも配慮が必要だということが課題としてあります。委員の方からは、嶺南には、夜間が2つあるが、時代の流れからどうあるべきかという御意見がありました。また、丹南にも2つ定時制課程を持つ高校があるが、1つでもよいのではないかと御意見もありました。また、放送大学などがAOS SAに移ったように、交通の便のいいところに通信制課程をもってくるという考え方が成り立つかどうか。定時制につきましては、今のところ独立校は1つしかないが、独立校を核とした教育を考えることが必要なのではないかと御意見がありました。また、夜間に通う生徒が減少しているとはいえ、経済的な理由で全日制に通えない生徒等の配

慮は必要だから、夜間もそれなりに残す必要があり、当然ですが、全廃するのは無理だという御意見がございました。以上が、前回いただいた論点1、2、3にかかる主な御意見でございます。

次に、6ページ、7ページを御覧ください。この前の会議で、少し他府県のことも勉強して来いという御意見をいただきまして、後で担当者から説明させていただきますが、まず、本県の就学体制と、他県に見られる体制について簡単に御説明します。本県の体制は、いわゆる「交代二部制」となっており、今週と来週で生徒の学ぶ時間帯が変わる。早出、遅出の関係です。1週目に午前中に勉強した生徒さんは、次の週は午後勉強するという形になります。資料の下の方に、この前の会議で、現在うまくいっているのではないかという御意見がありました武生高校の単位制の例を上げております。武生高校の場合には、午後の昼間と夜間を単位制で学ぶ。ただし、3年で卒業したい生徒のために、間に特設の時間を設けている。武生高校の場合は、昼間の単位制の生徒さんはこれで卒業され、夜間の生徒さんの一部には、4年間で卒業する生徒さんもおられるという形になっております。

それでは次に、他県の事例について、担当者から説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

福岡主任

高校教育課の福岡です。それでは御説明いたします。

8ページを御覧ください。まず、「刈谷東高等学校」。愛知県の刈谷市にあります。この学校は、刈谷駅から徒歩15分の位置にありまして、JR、名鉄の利用が可能であり、交通の便が大変よいところにあります。教育目標は、「あせらず・気張らず・着実に」。資料には記載されてはおりませんが、基本方針として、「真面目な生徒が損をしない、安全で安心して学べる、活力ある学校づくりを目指す、努力する者が報われる学校にしたい」ということを上げておられます。特徴といたしましては、単位制・2学期制をとり、定時制課程は昼間二部と夜間部、その他に通信制課程を設置しております。担任2人制、教育相談室の複数設置、スクールカウンセラーの配置、図書館での折り紙指導といった、生徒の指導体制が充実しております。内容は、後ほど詳しく説明させていただきます。開設学科としましては、昼間二部は普通科、夜間部は工業系の機械科があります。そして通信制は普通科です。次に、資料の時間割を御覧ください。昼間二部には、Aコース・Bコースで重なりがあります。Aコースが9時から1限で13時まで。Bコースは、2時間遅れて10時50分からスタート。2時間といいますのは、Aコースが2限行った後に、Bコースが1限からスタートするということで、2限重なっております。担当者の方に、入試の際の志望状況をお聞きしますと、入試の面接等で、A・Bコースの生徒の希望を聞き調整するそうですが、Bコースの方が希望が多いか、またはA・B半々くらい、ということでした。入試についてお話しさせていただきますが、本年度の倍率は2.6倍だったそうです。この2.6倍ということに、私も驚きまして、内容をお聞きしました。入ってくる生徒は、6割が不登校経験者、いわゆる年間30日以上欠席者です。担当の先生は、保健室・相談室登校者も含めると、8割近くが不登校経験者ではないかとおっしゃっておられました。そういう中で志望が2.6倍。この高校は、不登校を手厚く指導してくれるといった中学校との信頼関係ができておりまして、中学校側から送り出してくれているのではないかと、中学校の先生の勧めが大きいのではないかとおっしゃっていました。それと、これは教頭先生の余談なのですが、愛知県のこの地区では、義務制が厳しい指導をされているので、不登校生徒が多い印象を受けるということをお話しておられました。

9ページを御覧ください。学習指導の説明の前に、単位制について若干話させ

ていただきます。単位制といいますのは、一度修得した単位は再度学習し直す必要がないということです。修得単位を積み重ね、約74単位以上を修得すれば卒業できるということです。2学期制では、前期・後期に振り分けて、場合によっては、前期で単位を修得できると、そういうことになります。この刈谷東ですが、単位制の2学期制を敷いております。1年の時には、不登校の生徒がたくさん入ってくるということで、学校に登校しやすいように、授業は4単位時間、1限から4限目までです。2年になりますと、6限の授業をやっているそうです。2年・3年では6限、1年では4限と。トータル3年で修学が可能ということになってきます。

では、刈谷東の特徴について何点かお話しさせていただきます。資料に「2人担任制」ということが書かれています。先生のお話をお聞きしますと、生徒・保護者との対話の機会を増やし、より強固な信頼関係を築くことを目的として、2人担任制を活用しているということです。1年生から4年生ままで、全てのクラスで2人正担任制を敷いているそうです。次に、「学習サポートプログラム」。これは、個人指導といいますか、個人的に希望者に対して補習を行うものです。いわば、中間考査の1日前くらいに補習等を行う、こういうシステムを本年度から導入したということだそうです。

次に、教育相談体制の充実について話させていただきます。相談室は2つ設置されており、ひとつは退職された校長に委嘱され、9時から15時まで来られるそうです。もうひとつは教員が2名担当している。スクールカウンセラーは毎週金曜日、10時から15時までの5時間来られるそうです。また、保健室・図書室においても相談を受け付けますが、利用につきましては、利用は原則として1時間のみ。使用許可書を書かせて、相談を受けて休ませるそうです。

次に、特色ある取組みといたしましては、演劇部が盛んに活躍しているそうです。平成17年度は、全国高等学校演劇大会に出場し、文部科学大臣賞を受賞されているということをお聞きしました。もう一点、この学校を訪問しまして、大変感心し、驚いたことは、図書室に折り紙の立派な作品、立体的な作品が数多く展示されておりました。展覧会を開いてもいいような、すばらしい作品であります。資料に写真が載っていますが、この「赤富士」は、大きさが180cm×230cmですから、畳3枚分に相当するような素晴らしい出来の作品でありました。こういうものが、生徒一人ひとりが折ることによって完成しておりました。そこで、この折り紙の効果について考えられることをお話しさせていただきます。折り紙は、生徒の心を鍛える効果があるのではないかと。折り紙をきちんと角を合わせることは集中力につながる。しっかり折る、指先を使ってしっかりと折ることで脳を刺激する。決まった手順・ルールに従ってやることで忍耐力がつくのではないかと。そして、最終的に作品が完成することによって、達成感が得られるのではないかと、そのように考えられております。また、折り紙は、粗雑に扱うと破れたりしますから、紙を大切に使う、そういう心も養われるのではないかとということをおっしゃっておられました。以上が刈谷東高校の事例であります。

では、10ページを御覧ください。石川県金沢市の「金沢中央高等学校」です。ここの特徴は、単位制・2学期制をとり、平成16年度から総合学科に移行したことであります。総合学科とは、普通教科の科目のほかに、専門教科の科目も履修することが出来ますので、科目選択の幅が広がります。昼間二部・夜間部の総合学科、そして系列が資料にあります。このような選択科目群、系列があります。時間割を見ていただくと、先ほどの刈谷東と同じように、昼間二部といたしながらも、2時間重なっている時間帯での昼間二部制となっております。このまま1日4時間の授業を受けただけでは3年間で卒業できませんので、それを補う時間として、特設時間が設けられております。11ページですが、特設時間の中に

は、石川県の伝統美、アート表現等の特色ある授業等が行われております。また、この学校では、制服の着用はなく自由ですが、高校生としてふさわしい服装・ルール・マナー、授業への出席や態度などが、単位認定において厳しく求められております。

12ページを御覧ください。「志貴野高等学校」です。この高校は、富山県高岡市にあります。この学校の最大の特徴は、駅前にあるということです。駅を降り、地下道を渡った先に、高岡駅前西再開発ビル「ウイング・ウイング高岡」があります。そのビルの中に県立高等学校があります。このビルは12階建てですが、1階から6階までは市の施設、中央図書館、生涯学習センター、男女平等推進センター等があります。そして、7階から上が志貴野高校。エレベーターを使って登校する高校となっております。8階には体育館もあります。お聞きしたところ、卒業式などの大きな行事は、同じビルの内に市のホールがあり、そこを使っているそうです。

では、中身についてお話しさせていただきます。資料の時間割を見ていただくと一番よいのですが、I部とII部に普通科があります。その他、情報ビジネス、生活文化、国際教養科があり、普通科以外の専門学科が充実しております。また、同じビルの中に「富山県民生涯学習カレッジ」が併設されており、連携を図っておりますので、学校の中に社会人、50歳から60歳くらいの方が生徒と一緒に廊下を歩くような光景があるそうです。こうした社会人の刺激があり、今この学校の生徒たちが勉強していく上で、大きな影響を受けているのではないかというお話を受けました。また、こういうお話もお聞きしました。先ほどの刈谷東高校と同じように、I部・II部で時間が重なっております。教頭先生のお話では、I部・II部が重なっているこの時間帯は、ほとんど全ての先生方が授業を行うような過密な時間帯であると。この時間帯は大変なのですが、その分、15時から17時までの放課後に当たる時間帯が空いてきます。この時間帯で部活動をやったり、補習・受験指導、または職員会議等を行ったりということで、I部・II部の先生方全体の意思統一、または学校全体の方向性の統一が図ることができ、うまく機能しているということでした。

また、この学校は、13ページにありますように、昨年度「まんが甲子園」といいまして、高知県で行われます全国規模の漫画コンクールで最優秀賞を受賞したそうです。この学校のモットーが「のびのび好きなことをやりなさい」ということで、その芽といいたいまいしょうか、成果が出てきているというお話をお聞きしました。また、この学校の目標は、高校卒業であると。普通科はありますが、大学入学ではなく高校卒業が目標であり、それをモットーにして教職員が頑張っているというお話もお聞きしました。なお、この学校の入学時の不登校の生徒は3分の1、32%くらいが不登校期間が30日間ある生徒であるとお聞きしました。また、地理的なことから、生徒の6割近くがJRなどの公共交通機関を利用しているそうです。

それでは、14ページを御覧ください。「東濃フロンティア高等学校」、岐阜県土岐市にあります。2004年に「マイペースで自ら学ぶ」をモットーに開校されました。三部制でありまして、単位制の普通科高等学校であります。特徴的なことは、自分の教室がない、進級・留年がない、校則がない、生徒手帳がない、などが上げられます。全て自己責任を原則とするそうです。時間割を見ていただくと、昼間二部といっても、二部の中に前半・後半があり、いわば4コースとも言えるコース設定になっております。各コースとも、1日6限受ければ3年間で卒業可能ということになります。

15ページを御覧ください。この学校においては、I部の生徒は大学を目指す、進学を目的とする生徒向きであるということ。II部は、いわば不登校気味、そう

いう生徒にマイペースで学習をしてもらおうと。Ⅲ部は、仕事と勉強を両立していきたい生徒向きということだそうです。資料には記載されておりませんが、この高校では、部活動が大変盛んであり、剣道、バスケットボール、バドミントン、ソフトテニス等で定時制・通信制の全国大会に出場しているそうです。

以上で近県の定時制・通信制高校の設置状況についての説明を終わらせていただきます。

- 福田会長 それでは、委員の方々から御意見をいただきたいと思います。
この資料を見ますと、いろいろなタイプの学校を4校紹介していただきましたが、今まで議論されてきたことがかなり例示されているように思います。
特に、最後の岐阜県の高校の例は特別ですね。非常に自由度が高いと申しますか、生徒さん一人ひとりの自由に任せたもので、これは方向性をもってやるのは少し難しいかなという印象を受けるのですが、うまくいっているのでしょうか。
- 高校教育課長 うまくいっているかどうかというのは難しいところがありますが、ひとつ言えるのは、規模（生徒数）の問題がありますし、スタッフをどれだけ用意できるかが、うまくいくかどうかのひとつのポイントになっています。
- 福田会長 4つの代表的な例を挙げていただきましたが、本県ではこの4タイプのうち、だいたいどのような分布になっているのでしょうか。例えば、道守高校などはどこに入るのですか。
- 高校教育課長 道守はどこにも入らないということになります。
- 福田会長 どこか、ここに入るような近い学校はありますか。
- 高校教育課長 福井県の場合には、いまのところここに入るような学校がありません。そのため、こういう事例を選んでいるわけです。
- 福田会長 わかりました。それだけ福井県には課題もあるということの意味するかも知れませんね。
最後の東濃フロンティア高校を除いて、全体的に今日まで御議論いただいた内容をすべて反映したような高校で、それぞれの特徴が出されていると思います。
それともうひとつは、アドバイザーと申しますか、カウンセラー・相談役を必ず複数名おいて、そこにかなり力を入れていることが4校ともに特徴になっているのではないかと思います。そこで、福井県におけるカウンセラーの実際の設置状況はどうなっているのでしょうか。いろいろな御意見が出ました。生徒たちの気質をよく知っている担任にカウンセラーの勉強をしていただく時間をもっと設けてはどうかという意見に対して、カウンセラーというのは心の中に入っていく、もっと特別な能力を必要とするものであるから専門職を置くべきという両方の意見がありました。
- 高校教育課長 福井県の場合は、全日制・定時制も含めまして、筑波大学に半年間カウンセラーとしての研修を受けに行く教員が大体50人を超えておりまして、各学校ではそういう人を中心にしてやっております。ただ、研修を受けたのが10数年前の場合、異動とか役職に就かれた方もあって、全日制でも定時制でも、必ずしもそういった方が教育相談の担当かどうか、イコールではないと思います。また、道守高校の場合は、非常勤のカウンセラーを少しお願いしているという状況です。

福田会長 常時専門のカウンセラーが1人以上おられる定時制はどのくらいありますか。

高校教育課長 ございません。

福田会長 そういう状況だそうです。そういうことを踏まえた上で、今回委員の皆様から御意見を頂戴するわけです。

論点が3つございますが、今回は論点ごとにではなく、前後不同でも構いません。全体を通じて、今までおっしゃられなかったようなこと、事例等を御覧になった上で、こういうことを取り入れるべきじゃないか、これはこうすべきじゃないかなど、御意見がございましたら積極的にお出しいただきたいと思えます。

今日の教育長の最初のあいさつにもありましたが、昼間と夜間という昔の二部制のような、企業側に必要性があってやるという状況がほとんどなくなってきて、いろんな問題を抱えた生徒たちの受け皿になってきているという要素が強く、社会問題としてのひとつのソリューションを提供している面もあるということでした。

そう考えますと、やはりこれは非常に難しい問題をはらんでおり、そう簡単にはこうすべきだという答は出ないかもしれません。それだけに、今日は時間を取ってございますので、ドロップアウトしつつある、あるいは過去にした生徒たちを救って、社会に役立つ、あるいは幸せな人生を送れるようにする教育の場ができるのかを真剣に考えてみたいと思えます。どうぞ御意見があったらお出しください。藤田先生いかがですか。

藤田委員 今までの例や他府県の例を見ますと、やはり定時制教育というのは、昼間定時制、単位制、3修ができる、そして2学期制の4つの要素をもった定時制高校というのが、今の福井県にも生徒たちにも合っているのではないのでしょうか。今、福井県には、それらの要素を持っている定時制高校はひとつもないわけです。4つの要素のうちいくつかを持っているところはありますが、2学期制というのは、どこもとっていないわけです。したがって、これら4つのことを充実させていくということと、この前、道守高校の校長先生からもお話がありましたし、私自身も若狭高校の定時制におりましたが、いろんな問題を持った生徒たちが来ております。そういう子どもたちをうまく導いていく、ドロップアウトさせないためには、手厚いきめ細やかな教育が必要ではないかと考えます。学習指導だけではなく、生活指導においても必要だと思っております。そういう点で、養護教諭やカウンセラーが必要です。定時制高校で常勤の養護教諭がいるのは、道守高校しかないのではないかと思います。皆、臨時でお願いしているわけですが、生徒たちは、養護教諭に頼っているいろいろな相談をしております。ぜひ養護教諭は常勤で置いていただきたい。そういう形で生徒指導面での教員増をお願いしたいと思えます。それから、単位制につきましては、現在学年制をとっている学校でも、単位制をやろうと思えば、それほど問題なくやれるのではないかと思います。

3修につきましても、74単位の卒業単位を取るためには、今の教員の人員でそう負担にはならないと思えます。勤務時間8時間のうち、今の定時制では4時間の授業ですけれども、あとプラス2時間増やすことによってあまりにも負担が強くなるということはないと思えます。簡単ではないですが、今のままでもやってやれないことはないと思えます。

それから、通信制の問題ですけれども、いろんな形で通信制を充実させることがこれからの課題ではないかと考えております。今、嶺南にも若狭町の「ものづくり美学舎」で、北海道の星槎国際高校と連携しながら、専門学校のようなとこ

ろを作っておりますけれども、もし嶺南で、そういう通信制のスクーリングができる場所があれば、そういう専門学校と連携しながら通信制で学ぶことができる。生徒は専門学校に通っているような形で勉強させてもらって、スクーリングはそういうところで受けることができる。今はございませんが、昔は嶺南にも通信制があり、嶺北からもスクーリングに来ていたという実績もあります。改革すべき点は案外簡単かというと、簡単という用語弊がありますが、その気になればできるのではないかと思います。

福田会長 貴重な御意見ありがとうございます。ちょっと聞き逃したのですが、4点というのは、1つは3修制、2つめは単位制、3つめは2学期制。もうひとつは何でしたでしょうか。

藤田委員 昼間で行うということです。

福田会長 確かにアルバイト・就労の件がありますが、昼間に授業を行っても夕方からアルバイトすることもできるわけですから、できるだけ昼間に学習を行って3修制でやるということですね。今、藤田委員から御意見がございましたが、今までの意見をまとめていただいたような意見だと思います。非常に貴重な意見だと拝聴いたしました。他に何か御意見はございませんでしょうか。

杉田委員 この4つの学校は、どれも特色があって参考になり、どの学校も大変工夫してやっているというのがよくわかります。その中で、私が一番なるほどと思っているのが最初にある愛知県の刈谷東高等学校の教育目標の「あせらず 気張らず 着実に」ということ、先般道守高校のお話も聞かせていただきましたが、これが一番大事なテーマだろうと思います。

定時制高校には、今後も生徒は増えるでしょうし、いろいろな個々の課題がここに集約される。これからもこの傾向が変わらないとすると、しっかりと学校で受け止めて支えてやる、そして基本的な事を教えて社会に送り出してやるということが一番大きな目になるのではないかと考えました。そのためには、担任を二人にして生徒たちと十二分な交流ができるようにする。もちろん専門のカウンセラーを配置して専門的な相談を行うのも大事だと思います。

それから、教える内容ですが、基礎的な学習に特に力点を置いて、基本的なことだけはしっかりと学ばせて送り出す。そして本人に自信を付けさせて送り出してやる。福井県の定時制の学科は、普通科と商業科になっているようですが、例の中にもありましたが、社会の情勢を考えますと、もっと職業選択の参考になるような、子供たちの希望に沿った学科編制なども必要だろうと思います。また、民間の研修など、一般高校では出来ないようなことも時間の編制によっては可能になるのではないかと。そういうふうにして、定時制の学校に特徴をもたせて、ひいては父兄や子供たちの自信につながり、社会の評価を高めることにもつながることになると思います。

また、全体を通じて各学校よく考えているなと思ったのは、学校を楽しくする工夫というものが随分あるように思いました。こういう点も、今後福井県で定時制・通信制を考える上で基本的に考えておくべき点だろうと思います。

福田会長 ありがとうございます。今の意見も非常に大切な意見だと思いますが、特に、どういう教育内容にするかという点については、やはり実社会に出てある程度役に立つような幅広い選択をできるようにすることが必要だという御意見だと思います。

確かに「あせらず 気張らず 着実に」というのは、社会にドロップアウトするのを防いでいく意味でも定時制には大きな役割がありますから、2人担任制にするというのも、財政的負担はありますが、当然考えるべきであるという御意見だったと思います。

私もそのように考えるわけですが、普通科に力を注ぐ以上に、精神的にも社会的にもある意味弱者、そういう人たちに本当の力を注げるような県の教育行政であって欲しいと考えます。その点いかがでしょうか。

津田委員

先日からたくさん意見が出ていますが、この4つの事例をみて、一人でも多くの子どもの救うために、小さな改革から大きな改革へもっていかないとはいけません。最初から大きな改革は無理だと思います。通学便利な独立校の設置は大きな改革だと思いますが、昼間二部の学校にするというのは可能かなと思います。でも、高校は、先生の数が多い方がいいですから、すぐに先生の定員が増える、減るということを気にするのです。そうした時に、2人担任制を持ってくるとカバーできるかなと思います。

今からできる小さな改革は何か。何年か後に改革するのだったら、その間の子どもが救われたい。今救いたいと思う時にできる小さな改革とは何か、考えられないだろうかと思えます。

福田会長

今、意見がありましたように、昼間に移すというか、昼間の方が夜間よりもよいだろうという意見はやはり多いようですね。例えば福井南高校は昼間ですが、私も普通列車で大土呂あたりで乗ってくる生徒さんと何回か会った時がありますが、非常に明るいですね。そういう意味で、生徒本人たちも定時制という意識がないのではなかろうかと思えます。私自身も定時制とは思っておりませんでしたので、この間初めて定時制ということが分かったわけですけども、確かに昼間に持ってくることによって、生徒さんたちの気持ちも随分変わってくるのではないかという気はいたします。

橋詰委員

私は、特徴を持たせる教育というのがよいと思えます。岐阜県の東濃フロンティア高等学校の場合は、生徒をゼミに所属させるということですね。ゼミというと、一般的には大学でとられている方式であり、私は今、大学に勤めているんですが、今の若い人たちに共通して言えることは、自分の意見などを表現する力、発信する力というものがちょっと欠けているのではないかということです。私は、社会で一番求められているのは、そういう力を持った若い人たちだと思います。学校の授業で先生が教えることに対しては、誠実、忠実に対応できるのですが、ちょっとはずれた変化技に極めて弱いというか、そういう側面があるように思うので、ゼミみたいなどころで、意見交換やディスカッションなどの場を持たせれば、全日制の普通の高等学校で学んだ学生よりも、社会に役立つ、社会にすぐ適応できる、全日制の学生とは違った若い人たちの教育というのが可能ではないかと思えます。こうしてスタイルを変えていく、全日制にはない特徴を持たせていくということは、学校に魅力を持たせていくひとつの方法だと思えます。生徒にコンプレックスを抱かせない特徴というものをそういう形で導入できればと思えます。

福田会長

ありがとうございました。先ほど杉田先生からも同じような意見がございました。逆に定時制だからやれるというような特徴を生かしていったらどうかと。以前、杉田先生がおっしゃったのは、各業界・企業と連携して、インターンシップであるとか、企業から非常勤講師で来ていただくなど、そういう形で社会との連

携をもっと密にして、全日制ではできにくいようなことをどんどんやったらどうかということでしたね。そういう切り口もあろうかと思います。他に何かそういう観点からないでしょうか。藤田先生からも、定時制であるという特徴を出すというような話も中にありました。他に、定時制であるメリットというか、こういうところは定時制でなければできないところがあるんだというものがあれば御意見をお聞かせいただきたいのですが、どうでしょうか。

吉岡委員

定時制ならでは、ということでは、いわゆる全日制の学校より自由度が高いと思われるので、例えば子どもたちのニーズに合わせたような形での自由なクラス編制をする。1クラス当たりの人員についても、20、30人という大きいクラスから、それこそ5人、3人という非常に小さいクラスまで、その子どもたちのニーズに合わせたような形で編制したり、また、他の学校との交流、なかなかそこまではいかないかもしれませんが、いろんな社会人の方も通学されている場合もあると思いますので、そういった方との交流など、いろんな形で、そうしたことをやったらどうかと思います。特に、保護者や子どもたちとしては、心の病への対応、それから社会性を身に付け、高校を卒業するというようなことを希望していますので、クラスの編制など、そういったところで対応するというのを考えてはどうかと思います。

吉川委員

前回申し上げましたように、全国の流れは、昼間二部の固定・単位制・二学期制です。ただ、午前4時間授業を受け、午後以降勤める場合ですが、この「勤める」ということが、子どもたちにとっては、社会において育てていただけというメリットがあると思います。そういう意味で、4修の生徒と午後を中心にした3修の生徒、この2つが特色だと思います。それから個々に持っているシステムは非常にきめ細かいです。といいますのは1、2、3、4と次にずらしてやる場合、人数の配分による文科省の教員数よりも、相当増やしていかないと駄目だと思います。今、吉岡委員がおっしゃった1学級当たりの生徒数についても、地方の定時制は、わりと定員よりも少なく来るために、結果として少人数教育ができています。しかし、道守高校のように大きなところには、それなりに人数が来ますので、少人数教育をしようと思うと、それこそ県で予算措置をしてやらないといけないということが起こると思います。また、私はこの前の会議で、嶺南でも昼間二部制を、ということをおっしゃりました。今、定時制が敦賀と小浜に1校ずつあります。教員数を考えると、もし昼間二部制にした場合には1校かなという気がします。もし、そうでなければ、授業時間が4時間プラス2時間くらいのをそれぞれにつくるという考えもあると思います。嶺南は相当地域が広いので、なかなか難しい場合があると思います。現実には、敦賀地区から武生高校に相当の人数が来ていると思います。そうすると、生徒数に応じた教員数確保のための予算措置の必要性など、いろいろなことが考えられます。もう一点は、予算措置も含めまして、まず養護の先生を常勤化することと、それから道守高校のようなどころでは、養護の先生だけではとても指導できない生徒もたくさんおられて、専任のカウンセラーを常時置く必要性を感じております。

福田会長

先ほどからお話が出ております人数の話ですが、単位制にすれば人数も比較的控制しやすいという面はあります。しかし、2校を1校にするというようなことになると、教師の負担も増えるわけですから、予算措置、養護教諭・カウンセラーの配置などが必要になるという御意見かと思いますが。この高問協では、削減ありきではなく、どうしたらよい教育ができるかということをお話していると理解しております。その視点に立って御意見を賜りたいと思います。

- 吉田委員 定時制高校に行っている子どもたちのことを大人がいろいろ言っているのを巷で聞くことがあるのですが、委員の皆様がおっしゃったように、その学校に特色があれば、自分に合うところを選んで、自信を持って卒業後の人生計画を立てることができるのではないかと。さも普通科が全てというようなことを言う大人があまりにも多い中で、それぞれの子どもの特徴を生かせるような昼間定時制があつて、誇りを持って通える学校があるといいと思います。世間では、定時制に通う子どもや家族に対して、そんな目で見ているのかな、というようなことを思うことが時々あります。素直でとてもいい子の芽を摘むような大人もいるという感じがいたしますので、特徴ある、自分で誇りを持って行ける昼間定時制ができるといいと思っております。
- 福田会長 例えば、事例にあります金沢中央高等学校では、総合学科にしています。もちろん総合学科にすると負担は随分大きくなるのですが、一応、いろんな意味で選択の幅は増えますよね。こういうことについて、いかがお考えでしょうか。
- 吉田委員 選択の幅はあつたほうがいいと思います。
- 福田会長 福井県でも、定時制に総合学科があつてもよいというお考えですか。
- 吉田委員 学校の特徴を出す中で、そういうものがあつてもいいのかなと思います。
- 渡辺委員 私が知っている子どもで、小学校から中学校まで、ずっと不登校で通った子がおりますけれども、結局その子は、道守高校行って救われたのです。本人の話を聞いてみますと、自分の力で自分を動かせるようになったのは、道守高校に行ったおかげだつたと言つておりました。現在は成人して勤めていますが、勤めているところも、はじめはアルバイトの形で勤めていたわけですが、その雇い主さんの応援でうまくいったのだと思うのですが、こうした子どもたちが、自分で自分を動かせるようになるためには、ある程度の時間的余裕というものが必要となつてくると思います。現在も、こういう子どもたちが、自分の力で自分の人生設計ができるようになるために、定時制の在り方についてどういう意見を持っているかについては、学校自体はだいたいよく掘っているとします。実際に定時制に通っている生徒たちの「もっとこうして欲しい」というような意見について、分かっているのならば教えていただけるとよいのではないかと思います、どうでしょうか。
- 福田会長 例を挙げられた方は、道守高校のどういうところがよくて、立ち直るきっかけになつたとおっしゃっているのでしょうか。
- 渡辺委員 結局、普通の高校であれば、ひとつのルートに乗っていかざるを得ないということだと思つたのですが、道守の高校の場合は、あまりそうしたことがなく、周りの仲間にも自分と同じような挫折感を味わつたような者がたくさんいるというようなこともあつたのではないかと思います。
- 福田会長 今の事務局への質問ですが、どうでしょうか。
- 高校教育課長 ある定時制の学校で自主的にやっていたアンケートはあります。ただ、生徒は自分の学校しか知りませんので、例えば交代二部制についても肯定する子

が多いという結果になっております。また、福井県全体で、定時制だけではなくて高校生の意見をもっと聞くべきだというお考えはその通りですが、例えば、全日制の場合においては、中学校2年生と中学校3年生の進路志望というのも変わってきますし、中学校の生徒さんも自分がここに何とか行かなければならないとは思っています。それが本当の意味での希望かどうかということはもちろんありますが、定時制が第1希望というのは非常に少ない。しかし、課題を抱えた生徒はとにかく、自分はここに行くという形で納得していることはあります。もちろん、入った後も、細かいことではこうして欲しいというのがありますが、基本的に高校生の希望を聞くに当たって難しいことは、その学校の経験というのが非常に大きいというのがあると思っております。卒業した後は、「もっとこうして欲しかった」など、いろんな意見は聞くのですが、今いる生徒の希望というのは、ちょっと難しいのかなと思います。

福田会長 卒業生の希望というのはどういふのがあるのでしょうか。

三上委員 私は、2年間福井南高校におりました。先ほど福井南の話も出ましたので、その話を少ししたいと思っております。現代社会の中で、基本的に夜間制というのは残さなければならぬ。また、夜間に行く生徒は、かなり勉学の意欲を持っている、何かを求めたいという意欲を持っていると思っております。ただ、昼間制へ通う子は、やはり普通の学校の生徒と同じような形で高等学校を卒業していきたい、また親もさせたい。だから3年修学を考えていると思っております。道守に247名、南が80名ほど、それから丸岡に昼間があります。そのように考えると、何千人ということはないと思っておりますが、できるだけ昼間で、3修で卒業していくと。そうすれば、普通の高等学校の生徒の意識とほとんど変わらない。そういう中では、先ほど南高等学校の話がありましたように、生徒は定時制に行っているという思いを持たない。私がいたときには、和泉村や美浜町からも生徒がやってきました。滋賀県の西浅井や、大聖寺からもやってきます。かなりの範囲の生徒をそこで吸収でき、だから、昼間の定時制課程を2つほど作りながら、県は少し通学手当てを補助する。すると、学校を1つ作るより安く上がる。そのような範囲、通える範囲。そして3年間で高等学校を卒業できるという形にならないかなと思っております。夜間の生徒は、かなり経済的にも苦しいけれどもなんとか勉強したい、そういう意欲に燃えていると思っております。そういう生徒を抱えるに当たっては、できたらやはり担任はきちんと付けたほうがいい。面倒を見てくれる先生がいるんだなど、話をしてくれる先生がいてくれるんだな、声をかけてくれる先生がいるんだなど、こうしたことが、生徒にとってはいかに心強いのか。そういう先生がおられることを生徒は望んでいます。そういうやり方で、生徒を育てた方がいいのではないかと私は思っています。

福田会長 ありがとうございます。実際の御経験からの御意見をいただきました。

津田委員 先ほど会長がおっしゃったように、なぜ卒業生が道守がよかったとか、定時制がよかったとかいうのか。私の所へ遊びにくる子に聞くと、まず、普通の高校では自分の居場所が無かったけれども、道守では自分の居場所があったというのですね。小さなばかげた目標でも、なんとなく仲間が認めてくれる、なにか辛いと仲間が助けてくれる。それは、いい面も悪い面もあるのだと笑って言います。悪い方へ引っ張られる場合もあるけれども、本当に相手のことを考えて、仲間として助けてくれることも子どもたちは言っております。私は今、紙芝居をするために、2つの不登校の教室に行っています。事例の4つの高校の特色を見る

と、全部「表現」なのです。演劇や、作品を作るとか、スピーチコンテストに出るとか、全部「表現」なのです。私が紙芝居をして歩いていた際、生徒があるときから自分で演じてみよう。小学校、中学校の子どもですが、近くの幼稚園でやらせたところ、学校へ行けるようになった子どもが少しずつ増えているのです。なぜなのかというと、すらすらと言葉が出るようになり、コミュニケーションが取れるようになるのです。自分が何か表現できる、みんな特徴が、表現の分野が、入っているものなのです。全国でも自分たちで紙芝居を作って、自分たちで全国を歩いている不登校生を受け入れている学校、教室がいくつかあります。社会に向かって、どこかに向かって出せる力がつけば、子どもたちは一人で歩いていけると。普通の高校にないメニュー、部活など、そういうものを福井県の場合にでも少しずつ入れていくと子どもらが助かっていくというか、自信を持って歩いていけるのではないかと思います。

福田会長 ありがとうございます。これもやはり定時制の特徴を生かすというひとつの事例ではないかと思います。瀬尾先生いかがですか。

瀬尾委員 高校名は忘れましたが、前に校長先生と話をさせてもらったことがあります。その学校は、定時制と全日制が同じ敷地内にあります。生徒玄関は違いますが、同じ敷地にあって、一方はがんばってバリバリやっている。一方は不登校生ということで、心に何か病を持った子が来ていると。そうした子どもたちが、力いっぱいがんばっている子の声などを聞くと、どうしてもまた沈んでしまうということを知ったことがあります。併置で昼間二部制をとった場合、やはり生徒たちはまたつぶれてしまう、不登校になると思います。ですから、もっと単独校として、通学しやすい、駅に近い所に、学校といった大きな枠ではなくても、ひとつの教室といった形で、小さな部分から始めてほしいなと思います。学校として出発しようと思うと、予算等いろんなことがありますから、福井県としてできることは、やはり小さいところから進めていったらどうかと思います。

福田会長 それは、ひとつの考えだと思うのですが、教室として始めて、それをどのように持っていくのでしょうか。今までの定時制のシステムとどのように関連させるのですか。

瀬尾委員 カウンセラー等も常駐させて、教える先生は、例えば敦賀の駅前に作って敦賀高校から来るといったような形でできないかなと思うのですが。

福田会長 それは、分校というような形ですか。

瀬尾委員 そういった形ではなく、不登校になった子どもたちは友達とは一切会いたくなくなるのではなく違う場所を求めたいのです。新たな場所、自分が生きる場所、それが小さな枠組みでもいいと思うのです。その方が入りやすいと思います。

福田会長 そうですね。それは不登校に対するひとつの対策として、非常に有効な対策ですけれども、今論じている定時制の中で、それを同一に論ずるのはなかなか難しいですね。

瀬尾委員 高校、学校として考えるのではなくて、そうした小さな枠から始めてほしいなと。新たに高校を作ろうとすると時間もかかり、今の子どもたちを救うことはできませんから、すぐにできることはそういったことかと思います。

福田会長 今の御意見ですと、昼間に移行した場合は、同じようなことが繰り返される場合があるのではないかと、したがってその不登校生に対する対応ということも、同時にあわせ持って考えたらどうかという御提案ではないかと思えます。

瀬尾委員 はい。それと、結局は、「学校らしくない学校」といったことを取り入れていていただきたい。富山県の例もそうですよね。駅ビルを上がったら学校があると。富山県の議員さんからも聞いたことがあります、やはり子どもたちが楽しくなるような感覚で、できることを進めていていただきたいと思えます。

福田会長 はい。金井委員いかがでしょうか。

金井委員 先ほどから、定時制について委員さんの御意見をお伺いしているわけですが、頂戴しました参考資料1、前回配布資料をあわせて拝見をしておりますと、現在、福井県内の定時制は、県立高校が7校、そして私立で福井南高校が1校あると。形態でみると、昼間が5校、夜間が5校。学科でいえば、普通科が9校、商業科が1校、総合学科が私立福井南高校さんの1校だけ。そして、3修可能なところが2校、武生高校さんと福井南高校さんということで、バランスからみると非常に偏っている。特に、設置学科や、3修が可能かというところで、非常な偏りがあるのではないかと思えます。ただ、今日頂戴した協議資料を拝見していると、特に2ページの一番上にも書いてありますように、保護者、生徒自身は、高等学校を3年で卒業するという希望が多いと。また、この一番下には2学期制の要望が非常に強いというニュアンスの文面もございまして。そして、何よりもこの参考資料1の5ページにありますように、定時制の生徒数、これをグラフで見ますと、全日制の高等学校が右肩下がりでどんどん減っているにも関わらず、定時制では、ほぼ横ばいということは、それだけ定時制の果たす役割が非常に大きいということをお話しているのではないかと思えます。そこで、今すぐに何か抜本的な改革ができるのか。それぞれ学校は、形態・学科などの形が確立されておりますので、一朝一夕で何とかなるようには思いませんが、あくまでも私学人の立場からいえば、福井南高等学校さんのような昼間で単位制、なおかつ、総合学科を持つ私立の定時制高等学校があるということをお話において、そして県立との棲み分けをすることによって、この定時制を必要とする生徒を守っていくといいでしょうか、育てていく方向に持っていくべきはないかなということを感じた次第でございまして。そういった意味では、ここにこそ県立の使命があるのではないだろうかというように思えます。ちょっと的を射ていないかもしれませんが、この資料2つを見比べて、そういうことを思いました。

福田会長 どうもありがとうございました。いままで出た意見をまとめてお話しいただいたという形になったと思えます。ここに道守高校の学校の要覧があります。先ほど教育長から御紹介がございました。これはなかなか細かい資料で、にわかに見ただけでは理解できないのですが、道守高校の現在のシステムは、どのような点と、どのような問題点を持っているか、御説明いただけないでしょうか。

矢崎オブザーバー システムについては、前回もお話ししましたけれども、大きく分けて定時制、通信制がございまして。定時制につきましては、昼間部は、午前・午後が一週交替する形でやっております。夜間部は、夜だけの固定化という形で動いております。定時制は学年制ですので、原級留置ということがございまして、そこがクリアできなくて退学していく生徒も非常に多いというところが悩みであります。通信制は、また二つに分かれまして、学年制コースと単位制コースがございまして。資料

の14ページを御覧ください。通信制に普通科、家政科、衛生看護科があると書いてあります。これが、我々が学年制コースと呼んでいるもので、単位制と書いてありますのが単位制コースということです。単位制でない学科につきましては、いわゆる昔からの通信制でありまして、日曜にスクーリングを行い、その他は自学自習でレポートを出すというシステムで単位を取る制度です。単位制コースでは、生徒は平日に来ます。通信制に置かれておりますので、月曜日にスクーリング授業を行いまして、レポートを出して単位を取ると。月曜日の面接授業を受け、それを満たせば取れるという形です。その他、火曜日から金曜日にかけて、特設授業といたしまして、90分単位の授業を3コマやります。これは全日制と同じように朝から夕方までやるわけです。本来は通信制ですので、通信授業が基盤にならなければいけないわけですが、火曜と金曜の特設授業が非常に重い形になっておりまして、ちょっと全日制のような通信制のようなあいまいな形をとっています。これは、全国でも道守高校だけの形になっています。これは、過去にはうまく機能していたと聞いているのですが、通信制は本来、自学自習が建前です。自由度が大きく教員もあまり細かいことはいちいち言わない、自由にさせるというのが本来なのですが、単位制コースに来ております子どもたちは、やっぱり一般の高校生と非常に似たような状況にあり、年齢的にもほぼ全日制の高校の子たち、特にこの単位制コースは転編入生が多いので、1～3歳ぐらい年上ということはあるのですけれども、わりあい全日制の高校に近い形です。そのために、どっちつかずの状況になっていると。今の時代、手厚くしてやらなければならないということが起こってきておりまして、そのために通信に置くというのは実状に合わないということが起きております。また、衛生看護科と申しますのは、鯖江の准看護学院と技能連携をしております。本校で普通科目を取り、准看護学校で看護の資格を取るということで、半々で合わせて卒業ができるということにしておりまして、過去に多数の准看護師を送り出しました。しかし、准看護学校が次々と閉鎖になりまして、最後に残りました鯖江准看護ももう閉鎖でございますので、残念ながらこの衛生看護科は歴史を閉じることになるのであろうと考えられます。

福田会長 通信制に少し問題があるということでしょうか。

矢崎オブザーバー 単位制コースですか。

福田会長 はい。

矢崎オブザーバー 通信制に置くのは、少し難しい面がございます。私が意見を言っているのかどうか分かりませんが、定時制は、全国的に単位制の方向が進んでおります。定時制が単位制になると難しい面もあるのですけれども、一つのメリットは、やはりドロップアウトする生徒が少しでも減ることです。学年制ですと、途中で単位時間の欠課オーバーがおきますともう進級できません。しかし、単位制の場合は、ある科目は落としても出席した科目は取れるということがあり、その単位を貯めて卒業が可能ということで、やや救うことができるわけです。定時制が単位制化するケースが全国的に増えてきたのはそういう意味だろうと思います。そこで、道守高校におきましては、通信に単位制がありまして、そういうことが可能でしたけれども、定時制が単位制化されるのであれば、そちらへ持って行って、通信は本来の通信にした方が手厚くできるのではないかと思います。今、日曜日にしかスクーリングがございませんが、この子たちもできるだけ手厚く育てたいというためには、もう一日どこかでスクーリングを増やす方が本当はよいわけです。し

かし、通信の教員は、単位制の子が平日来ておりますので、そういうことができません。そこが苦しいところというわけです。

福田会長 ありがとうございました。今の御説明になにか御質問等ございますか。

高校教育課長 今のことではありませんが、二学期制につきましては、一応、今の道守の通信の単位制と武生高校の定時制の単位制は、福井県の管理規則で二学期制が可能になっておりまして、そういうふうになっておりますので、全然ないわけではないということをお承知おきください。

福田会長 わかりました。現実的に前期・後期になっているのですか。

高校教育課長 はい。

福田会長 他に、通信制について何か御意見はございませんでしょうか。藤田先生いかがでしょうか。

藤田委員 通信制につきましては、途中でやめていく生徒が多いということで、例えば若狭高校を卒業できなかった子、途中退学した子などは通信制に入るのですが、すぐにだめになってしまうと。それでどうするかというと、例えば大阪の専門学校へ行きます。大阪の専門学校では、どこかの通信制高校とタイアップしまして、高等学校へ行くように学校へ毎日行って、レポート指導などを受けて通信制の学校を卒業するという、そのようなシステムの学校が結構都会の方にはあります。福井県でも、若狭町の美学舎とか、また福井の方にもあるそうですけれども、専門学校的に通信制に行きたい生徒を集めて、教科指導をして、契約をしている通信制の学校を卒業させるという方法があるようでございます。そのような専門学校的な学校と、例えば福井県の通信制の学校がタイアップして、スクーリングは県の学校がするけれども、日々のレポート指導については自学自習をとるというよりも、専門学校で教えていただいて、レポートを提出するというような形の学習方法というか、自主的で能力のある子に育てるためのひとつの方法として、通信制の充実というものを福井県でも考えたらどうかと思います。

福田会長 ありがとうございました。先ほどの瀬尾委員の御意見とは少し違いますが、ひとつの特殊なサポートのための仕掛けをつくるということにおいては共通しております。要するに、そうしたきめ細かいフォローが必要ではないかということだと思っておりますが、今のこうした意見に対して、事務局の方いかがですか。これはやはり、新規にいろんなものを作るということで、先ほどの瀬尾先生の場合もそうですが、こういうものに関しての可能性というのはどうでしょうか。

高校教育課長 それはあり得ると思いますが、結局、どこが引き受けるのかというときのシステムが結構厄介です。建前の自学自習というのは、基本的に高校生にはなかなか難しいので、どうしてもそのサポートというのはどこかで考えないといけない。それが今、専門的なところがいくつか引き受けてくれている、もっと言えば公立以外が引き受けてくれているということがあるのですが、それを公立が引き受けるというか、やれるというシステムは、通信制ではなかなか難しいと思います。

福田会長 先ほどの瀬尾委員の御意見もそうでした。結局、不登校の経験のある子どもたちは、定時制を昼間に持っていった時に、また不登校になるのではないかと

がって、そういう人たちのための別個の仕掛けを作るべきである、作った方がいいという御意見でした。スクーリング等の問題で、専門学校等と協力して別個のシステムを導入することも考えられるという御意見は、目的は違いますが、これはなかなか予算的にも、現実的にやろうとすると大変ですね。その点の、予算面とか、いろんな面において県の意向はいかがですか。ちょっと、今すぐに返答というのは難しいかもしれません。

広部教育長

不登校対策は、教育上、非常に大きな課題でございます。この前も申し上げましたが、現在、県内の中学校の子どもたちの不登校の数が40人に1人いると。要するに、1クラス40人であれば1クラスに1人ずつという勘定になるわけです。その子どもたちが、中学校を卒業したらどうするのか。そのまま高校に行かず、不登校になれば、大人になっても引きこもりになってしまう。これは社会的な損失ともなりますし、社会的不安のひとつの要因にもなるということで、今、大きな課題として受け止めております。また、この対応につきましては、例えばボランティアの皆さんの連携であるとか、いろんなことを私どもも考えております。その中で、中学校を卒業してからどうするかということをいろいろ考えているわけですが、確かに、今カウンセラーであるとか、今瀬尾委員がおっしゃったようないろんな方策はあります。事業費がたくさんかかる部分はございますが、それは御提案は御提案として承って、そういった面での可能性は十分検討していきたいと考えております。それから、最初に御説明申し上げました他県の事例についてですが、各県とも不登校対策を色濃く考えております。少し補足説明をさせていただきたいと思っております。

福岡主任

では、補足説明をさせていただきます。8ページを御覧ください。刈谷東高校の時間割があります。昼間二部はAコース、Bコースで重なりがあるという話をいたしました。入試では、Bコースの方が人気あります。Bコースは10時50分、これは通常の全日制の高校とかなり開始時間が違っております。このコースには、不登校の生徒の割合が多いと聞いております。Aコースの方は、9時からではありますが、他の全日制高校と同じで、進学を目的として3修を目指す生徒が希望するという話を聞いております。もう一点、この刈谷東高校の生徒の就労状況について申し上げたいと思っております。刈谷東高校では、正規社員は一人もないという話を聞いております。1年生では160人中20人がアルバイトをしていて、Aコースは、午後は部活をしたり、家に帰ってゆっくりしていると。まさしく、「あせらず、気張らず」ということです。また、学校側としては、遊び型のアルバイトは注意をしているそうです。アルバイトの収入や職場の人間関係から、生活が乱れたり、学業の意欲が薄れたりすることが原因で学校をやめていく場合があるからだということです。以上、補足説明をさせていただきました。

福田会長

提言は提言として、いろんな意見をお聞きいただいております。しかし、なかなか難しい面もあることは事実だと思います。もう一度、全般的に御意見を賜りたいと思っております。

藤田委員

先ほど専門学校の話をしましたけれども、これは県がそういう所を作るというのではなく、そういうことをやろうとしている団体があるのです。若狭町の美学舎なども、そういう形で北海道の私立高校と連携してやっているということです。ところが、私も少し聞いたのですが、そこに入って通信制で勉強する場合に、非常にお金がかかります。県立高校の通信制であれば、それだけかからないと思

うのですが、結構お金がかかる。ですから、そういう団体と福井県の通信制がタイアップすれば、お金がなくてもできるのではないか。専門学校、団体へのフォローができるのではないかということを思うわけです。そのような団体が小浜にも結構あるのです。例えば、調理学校が高等学校の資格を取らせると。その場合、その高等学校へ払うお金が結構高いのです。ところが、県立であれば、本当に少ないお金で、そのような形ができるというように思います。お金がなくても、不登校の子が通信制で学ぶことができる。そういう意味で、先ほど申し上げさせていただきました。

福田会長 ありがとうございます。しかし、どうでしょうか。福井にそういう取組みは他にあるのでしょうか。

藤田委員 福井にもそういう団体があると聞いております。

福田会長 事務局、何かつかんでいますか。

高校教育課長 今のお話は、調理学校の方は三重でしたでしょうか。三重県の高校との技能連携というのをやっています、北海道の星嵯というのも、福井の駅前に高校の分校というか福井校がありまして、そこの卒業になるということです。調理師学校へ行っていた生徒さんも、その三重県の高校の卒業生になるという形。先ほどの道守の看護も、技能連携をとる形を通信制の中でやろうという話かなと思っています。

福田会長 わかりました。他に何か御意見はありませんか。

吉川委員 定時制の独立校は道守高だけですが、他の高校も、例えば昼間二部の学校などは、生徒は違和感なく通っていると思います。道守高と武生高の定時制は必要ですが、先ほど申し上げましたように、丸岡・大野と併せて、嶺南の方も昼間二部制にすることによって、他の専門学校等と連携等はあまり考える必要はないと思っています。また、富山の志貴野高校などがやっている総合高校についてですが、これは経営的なものとか、割と一般の方が興味を示されるような科目を持ってきて、生徒とともに受講させるという形ですが、福井県はどちらかというと、そういう生涯教育がライフアカデミー等で、ある程度系統化されて持っているのです。そうした中、定時制とあわせて県民生涯学習のようなものを設置して、充分機能するかどうか、私は少し危惧しております。そういうものが機能すれば総合高校もありうるのですが、福井県の場合、教養主義と実学主義でいうと、教養主義の方が勝っているように思います。富山の県民性と福井の県民性とは、もともと違っているのではないかと。従って、福井県で、総合高校を定時制の単独校として設置することは、なかなか難しいと思います。普通科の中に選択科目を取り入れていくという方向がよいのではないかと考えております。私立高校の場合は別ですが、県立高校の流れでは、それが無難かなという気がします。それから、先ほど併設校の話が出ましたが、確かに、丸岡高校などは分校で非常に落ち着いた環境を持っています。しかし、大野高校等も併設はしていますが、ほとんど分校に近いのです。それぞれに、併設であっても分校に近い状況を作れば、それなりに機能すると考えております。以上です。

福田会長 少し分からなかったのですが、総合学校はやはり福井では難しいだろうということでしょうか。

吉川委員 ひとつには、人数が多くないと系列が作りにくいのです。それから、今申し上げたように道守に商業科がありますが、それさえも機能しておりません。資料の12ページにありますように、志貴野高のように、「情報ビジネス」、「生活文化」、「国際教養」などを社会人と学生と一緒にやっていくことは、福井では少し難しいのではないかと思います。というのは、生涯学習は、ライフアカデミーがいろいろとやっています。そういうことで、今更というとなんですが、定時制の生徒とともに学習する人というのは意外と出てこないのではないかと思います。道守高校にいました場合、道守の先生が英会話教室をされており、その教室の方々を聴講生として道守高に入れたのですが、なかなか生徒との足並みが長期にわたってはそろいにくいということがありました。実学ならまだよいと思うのですが、そういう定時制の生徒と一緒に学習するという流れが、果たしてあるのかということに疑問視しております。

福田会長 それから、専門学校とのコーポレーションは必ずしも必要ではないということですね。

吉川委員 定時制の場合は、教養的なことを中心にしています。通信の場合はプラスアルファのケアをする必要があるのです。レポート作成のケアなどです。定時制の場合は、普通の全日制になじまない生徒がおりますが、学校としての内容は、全日制とそんなに変わらないのです。だから、そうした生徒さんは、定時制については、学校の中で充分ケアできるということです。

福田会長 藤田先生がおっしゃられたのは、通信制についてでした。

吉川委員 先ほど、瀬尾委員さんが定時制についてもどうかとおっしゃられたので、申し上げます。定時制の方は学校で充分ケアできます。それから、昼間二部制の生徒の場合は、この会議で出た意見のような雰囲気は持っていません。のびのびとして明るいです。

福田会長 はい、ありがとうございます。先ほどの瀬尾委員のお話ですと、やはり昼間に持っていったときに、また同じように不登校が出てくるのではないかということに関してはどうでしょうか。

吉川委員 もともと不登校気味の生徒が多いことは事実です。それでも学校へ行くと、先ほど津田委員からもお話がありましたように、生徒のいる場所があるのです。そのために少人数教育でコミュニケーションを図るということは非常に有効なものです。先ほど申しました丸岡、大野などは、たまたま少人数教育ができていますが、道守あたりはこれからの形態、定時制での昼間二部・三部の形態と生徒数の在り方、それがどういう状態になるかということを考えながら、ある程度少人数教育が入れられればなおよいと思っています。

福田会長 なるほど。先ほど事務局から説明がありました刈谷東高等学校のBコースは、少し遅い時間から始まります。例えば11時から始まる。これは、不登校児が多いからだというような説明があったと思います。ある程度時間を遅らす、少しずらすだけで、ずいぶん違っているような事例もあると思いますが、瀬尾委員、その点はいかがですか。今の吉川委員の御意見も併せて考えますと。

瀬尾委員 今、説明を聞いていまして、なるほどと思う点はあります。ただ、現在学校へ

行っていない生徒もたくさんいて、その生徒たちもやはり救ってあげたいという思いで、提案をさせてもらいました。ある程度学校へ行ける子はいいのですけれども、学校という組織の中にいけない子もいます。その子たちを救ってあげるためにはそういった施設も必要ではないということで提案させていただきました。

福田会長 そうしますと、定時制の枠内で考えたらいいか、あるいはそれは別個に不登校対策として考えるべきなのか、必ずしも分離できない点と分離して考えなければならない点と両方あるように思うのですが、どうでしょうか。

瀬尾委員 定時制に不登校生が多くなってきているということで、自分の思いとして提案させてもらいましたが、また、別のところで、義務教育課や高校教育課など、別の組織で考えられるということであればそれでよいと思います。

福田会長 他に御意見はございませんか。

吉川委員 今の刈谷東高ですが、これは、ここで意見が出ております昼間二部の固定と形態は同じで、さらに細やかにやっているのです。1年目は4限で、2年目からは6限でやっているのです。相当、昼間二部よりも先生方をたくさん補充しているのではないかと。もちろんこういうことができるならよいのですが、これができにくいと、午前4限、午後4限にして、真面目に授業中心にやる子は午前に、ちょっと朝に弱い子は昼から学校に来る。昼からの子は、午前中の4限の部分、あるいは3限、4限、5限、6限は変えた場合、選択で、3限、4限をとるというような、コンパクトなやり方を前回お話し上げたわけです。

福田会長 他に御意見はないでしょうか。

杉田委員 2つ質問させていただきたいと思います。1つは、道守高校の校長先生にお聞きしたいのですが、今までの御意見をお聞きになって、学校経営をなさっていて一番悩んでおられるというか、特に子どもたちの不登校、あるいは落ちこぼれていくという問題をどのようにお考えになっているか、現状はどうかということをお尋ねしたいと思います。もう1つは、金井理事長に、私立学校の経営の立場から、もし私立だったら、今の定時制の抱えている問題に対してこんなことができるということがあれば、お伺いできればありがたいと思います。

福田会長 それでは、矢崎校長先生からお願いします。

矢崎オブザーバー お話を聞きまして、思い当たることはいろいろございます。とにかく入学させましたけれども卒業ができない子たちは、かなりおります。道守に入ったおかげで不登校が直りましたという子たちもたくさんおります。無事に卒業した子たちの声というのは、卒業式の言葉または生徒会誌にいろいろ出てきます。道守高校では、いろんな生徒がいる中で、自分は一人だけで悩んでいたのではない、いろんな仲間がいたということで救われるということがあると思います。それから、3修制という話がでてきましたが、3修をする子も居りますし、逆に5年も6年もかかって卒業する子もございます。それから、一旦休学したけれども、また復学してきてがんばるという子もおります。いろんな子がいて、回り道をしたけれども、それでよかった、そういうことができるのだということがわかったという声が卒業する子たちから寄せられます。ですが、一方では、そこまで至らなくて、何とかしてやりたいけれども途中で退学をしてしまった子たちもおりま

す。何とか一人でも多く卒業させたいと私ども教員は日々願っております。また、精神的につらい子もたくさんおりまして、いろいろ教員に悩みを訴えます。そういう子たちから救いを求める電話などがあれば、教員は夜でも駆けつけるということをやっております。私たちの道守高校では、他校より非常に自由度が高いということで、いろんな課題を抱えた子達を受け入れられるのだと思います。そういうよさをなんとか残したいと思います。しかし現実には、昔からの体制が色濃く残っているために、少し現実合わない部分があります。その辺を埋めつつ生徒たちが幸せに卒業できるような体制を是非取れば、と願っている次第です。余談になりますが、うちの学校は制服もございません。そういうことで案外救われる場合がございます。彼らはいろんな意味で自己表現をしたいと考えており、服装もひとつの自己表現です。TPOも指導しているのですが、とりあえず一度、表現することを許してあげる、受け入れてあげる。また、現在では、性同一性障害という問題もあります。そういう子たちは私服であるために生きていきやすい。少し変な話ですけれども、そういうことが実はございます。今の定通高校というのは、いろんな子たち、いろんな生徒たちが、自由に居場所を見つけられて、そして社会へ出て行く力を付けられる、そういう学校としての使命があるのではないかと考えております。

福田会長 今、いろんな意見をお聞きになりまして、さらにこういうところは改良したいとか、ちょっと変えたいと思っておられるところはございますか。

矢崎オブザーバー 少人数教育を進めてもよいのではないかと。また、サテライト教室の話も出しましたが、そういうものを私ども教員の中で研究しております、こういうのはどうか、というような意見はいくつも出ております。

福田会長 ありがとうございます。金井先生いかがですか。

金井委員 杉田委員からの質問でございますが、実は大変答えにくいという面もでございます。といいますのは、私学の中で1校だけ、福井南高校さんが定時制としてがんばっておられるわけでございますが、私は、その経営者でもございません。とやかく言うべきではないと思っておりますし、ましてや南高校の元校長の三上先生がお見えでございますし、その前でも、お話しにくいわけですね。そういったことに目をつぶって、私学経営者として何ができるのかと言われた時に、まず、私学人としてできたことは、これは10数年前になろうかと思いますが、福井南高校さんが設置の申請をされたときに、実は、福井私立中学校高等学校協会内では、私以外の理事長さんは反対されたわけですね。もちろん、南高校さんが設置されることによって、全日制・定時制との違いはありますけど、県立高校と私立高校とのいわゆる生徒数の割り振りということで、全日制にも、影響が及ぶのではないかと、当時の他の理事長さん方の危惧であったというように記憶しております。しかし、先ほど申しましたとおり、定時制の生徒数が、過去10年間、まったくと言っていいぐらい減っていない、横ばいになっている。これは、その前の10年もおそらく同じような状況であったのではないかと推測するわけでございます。そういった状況で、絶対に必要なものなのだから、設立された今井理事長の高邁なお考えに私どもも賛同しまして、私学としても定時制をやろうじゃないかという思い切った御英断を尊重すべきではないだろうか、北陸高校、仁愛女子高校の理事長さんと話し合いをして、私どもも、設置に御協力申し上げたという経緯がございます。そういったことから考えましても、一経営者として言えることは、ニーズがあるのだから、ニーズを的確に踏まえて応えていくということが

あげられるかと思えます。より突っ込んだことを申し上げると、先ほどから資料を見ている間で、一番ひっかかるというのでしょうか、何とかせねばならないと思うのが、3修という問題、2学期制という問題、就学の形態がどうなのか、設置学科が普通科に果たしてここまで偏っているのかどうか、定時制だからできる学科というものを打ち出していくべきではないかというのが、大変、口幅ったいわけではございますが、私学人として考える経営の方向性ではないかと思えます。大変、漠然とした回答で、回答になっていないかもしれませんが、お許し願いたいと思えます。

福田会長

もうひとつ、これは非常にお聞きしにくい部分ですが、やはり、定時制の場合、いろんな立場の生徒さんが行かれると。不登校もあり、特別支援学校に行きたくないから定時制を選ぶ場合もある。さらに、このような表現が適切かどうか、ちょっと気が引けるのですが、反社会的で手に負えないような生徒が中にはおられると聞きました。そうなってくると全体のバランスをとって、画一的にひとつの方向性を持ってやることには、しばしば困難なことがでてくるのが危惧されます。こういう点につきましては、道守高校の校長先生は、実際にどのように対処されておられるのでしょうか。要するに、生徒の多様性への対応の仕方についてお伺いしたいということです。

矢崎オブザーバー

そこが非常に悩ましいところでありまして、生徒のプライバシーに関わりますので、答えるのが難しいわけではありますけど、低学力の生徒につきましては、やはり個別指導で行くしかありません。こうした生徒は、はっきりした数字は言えないのですが、定時制に1割、通信の学年制コースに1割くらいおります。そこでできることは、担任による個別指導しかないわけです。定時制では、習熟度学級を国語、数学で組んでおりますけど、教員数の関係ですべてに手が回るわけではありません。夜間部は人数が少ないので、割合手厚くできるのですが、昼間部では非常に厳しいものがあるというのが現状であります。ましてや、通信学年制コースでは、相当、担任や教科担任が頑張らないと、彼らを卒業までもっていつてあげることができないことが非常に悩ましいところです。また、反社会的な傾向の子どもたちですが、彼らの指導については非常に悩んでいます。彼らも、もとを正せば悩みを抱えながら、やむなくそうした状況に至るのです。今のところ、心の教育といいますか、頭から叱りつけるのではなく、受け入れていくしかありません。一方では、不登校系の心の悩みを持った子たちがいる。もう一方では、反社会的な子がいる。いろんな多種多様な生徒たちを育てていくためには、とにかく個別にかかわることしかないと考えます。

福田会長

どうもありがとうございました。現場としては、非常にお困りの部分が大きいということが今のお答えでもよくわかるわけですが、その視点から、何かアドバイスなり、御意見なりはございますか。

橋詰委員

多種多様な事情を持った子どもたちを受け入れており、その指導に非常に苦慮していることだと思いますが、ひとつお聞きしたいのは、この子どもたちを受け入れて、高等学校として、高校生としての学習を何とか身に付けさせることに主眼を置く教育のやり方と、もうひとつは、社会に適應していく子どもたちをつくっていくことでは、教え方・指導のやり方が変わってくるのではないかということです。もうひとつお聞きしたかったのは、ドロップアウトして、途中で残念ながら退学する生徒もいるという話ですが、その後の子どもたちがどうなっているのか、実態調査のようなものがあるのかどうかということです。私はどちらかと

いうと、社会への適応性を身に付けさせることが、子どもたちの人生、社会のいろんな面からみてもそちらの期待度が大きいのではないかと思います。

福田会長 学業的なものを身に付けさせることを目的としているのか、多様性を考えて、社会に適用することを主眼にして教育しているのか、どちらにウエイトをおかれているかということです。

矢崎オブザーバー どちらかというよりも、両方大切だと思います。コミュニケーション力を身に付けさせる一方では、基礎学力を身に付けさせる、社会性を身に付けさせる。日常生活のスキルがうまく身に付いていない子がいますので、いろんなことをひっくるめて、生きていく力を付けるということで、どちらの方に偏っているのかということではなく、両方大切だと思います。

橋詰委員 私は、社会への適応能力を付けさせる教育の方がいいのではないかと思います。高校の次には、社会がバトンタッチを受けて引き受けるのですから、引き受ける社会にとって、引き受けやすい子どもたちがいいのではないかと個人的に思います。実態みたいなものはありますか。子どもたちが就業しているのか、それとも就業していないのかいろんなことの実態調査、卒業生ないし途中でドロップアウトした子どもたちがどうなったのか、わかるものはありますか。

矢崎オブザーバー 正直申しまして、そのようなことを体系だって調べてはおりません。現実の今いる子どもたちで一杯いっぱいというのが現状でございます。ただ、担任は途中でやめた生徒について絶えず気にかけておりまして、うちの場合、退学しても2年以内ならばやはり復学が難しくないで、声かけをして、少しでも救い上げることをやっております。

福田会長 もうひとつお聞きしたいのですが、カウンセラーの必要性についてはどの程度お感じになっておられますか。

矢崎オブザーバー カウンセラーは極めて重要です。普通は担任が第一番の窓口でありますけど、とても抱えきれないような重い事例が多々ございます。特に、精神面での事例、家庭的なことがあります。相談体制には2段階あります。担任のほか、校務分掌のひとつとして教育相談係を設けており、教育相談係は担任をはずして、すぐに対応できるような体制になっております。通信の教育相談担当者は、学校心理士の資格を持っております。もうひとつが外部から講師として招いているプロのカウンセラーです。この3者が連携しまして、担任は教育相談担当やカウンセラーの指導を受けてやっていく、場合によっては担任が知らない形にしておいて、カウンセラーが動いていく方が生徒にとっていいケースもあります。どちらの体制がいいのかということ、常に教育相談担当、養護教諭、管理職、担任が連携しまして、問題が起こったときに対応できる体制をとっております。

福田会長 カウンセラーの数は、今のところ足りているとお考えですか。

矢崎オブザーバー 今、週3回来ていただいておりますが、毎日来ていただけるようになるとありがたいです。

福田会長 わかりました。他に御意見はございますか。今までを振り返って、どの切り口からでもかまいません。津田委員、いかがですか。

津田委員

問題が大きくて、頭が右往左往しているわけですが、本当にいろんな子どもがいますので、どの学校においてもカウンセラーは足りない状態だと思います。ひとつの方法として、教員OBで、その道をやってきた人が少し入ってもらえないかと思います。生徒に接してこられた先生方を発掘し、お手伝いしてもらえないかと思います。電話相談ができないか。NPOがやっておりますが、来てもらえなくても電話で相談できる、問題が起きたときに対応できる体制、警察との関わりなど、きちんと綿密にできる体制をつくるのが大切だと思います。もうひとつ、先ほど通信制の専門学校との関係が福井の場合は難しいということですが、塾経営者たちがボランティア精神の中で、ただではできないと思いますが、そのような関係ができないかと思います。また、教育研究所が道守高校の一番近くにありますが、学習支援センター、研究所などを嶺北、嶺南と2つ設けられれば、子どもたちが行きやすいかなとも思います。

福田会長

最初から申しましたとおり、この問題は、複雑な社会背景を持っているものですから、一定の方向が協議会として出されたかどうかは、はなはだ心もとないところがございますが、多分、主要な御意見はいただいたのではないかと思います。まだ御意見はあろうかと思いますが、予定した時間になりましたので、この辺で閉めさせていただいて、司会を事務局にバトンタッチしたいと思います。

○閉 会

教育政策課長

貴重な御意見をありがとうございました。本日の議事録につきましては、整理いたしまして、ホームページで公開させていただきますので、御了承願います。次回につきましては、6月下旬ぐらいを目途に開催したいと思います。お手元に日程調整用の用紙をお配りしてあると思いますが、こちらで日程調整させていただきますと思います。出欠の可能性等を御記入いただいて、事務局にお返しいただきたいと思います。一応、諮問の3項目につきまして、御議論いただきましたので、次回は、これまでの御意見を踏まえまして、答申に持っていくための全体の御議論をお願いしたいと思います。事務局で、これまでいただいた御意見等を整理させていただきますので、お示ししたいと思っております。また、今後、資料を作成する都合上、事務局が個別に委員の皆様へ御意見を聴きに伺うこともあろうかと思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは、第7回会議はこれで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

以上